

暑さに負けず、1学期のまとめをしよう！

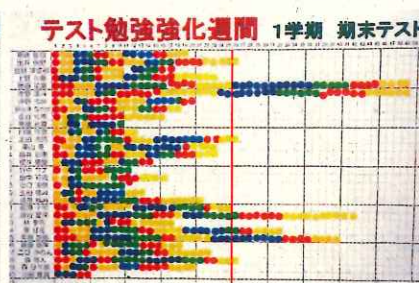
期末テストが終わりましたが、プロ委の取り組みである「10日間で25時間の学習」は達成できましたか？3.6名が達成し、達成率は40%でした。最高学習時間は49時間でした。（2名）

ニュースなどでも言われていますが、今年は例年にも増して、暑い夏になりそうです。今後に向けてしっかりと「勉強体力」をつけていきましょう。

4月にこの高松中学校に入学して早、3ヶ月が過ぎました。もうしっかり中学校生活に慣れましたが、「慣れ＝ゆるみ」になってはいけません。7月は今一度「初心」に返って1学期の締めくくりをしっかりと、2学期につなげられるようにしていきましょう。



(1組)



(2組)



(3組)



7月の行事予定

- 1日(火) 全校集会
- 2日(水)～4日(金) 特別時間割
- 4日(金) 漢字検定
- 9日(水) 読み聞かせ、壮行式
- 10日(木) 小テスト(英語)



- 12日(土)～13日(日) 県体、県通信陸上
- 16日(水) 専門プロ委
- 17日(木) 生徒議会
- 19日(土) 県吹奏楽コンクール
- 19日(土)～20日(日) 県体
- 23日(水) 通知表渡し
- 24日(木) 大掃除、終業式
全国・北信越壮行式
通知表渡し

保護者のみなさまへ

7月23日(水)～24日(木)に通知表渡しを予定しています。学力の向上、そして充実した夏休みを過ごすためにも学校と保護者との連携がとても大切です。7月末のお忙しい時期だとは思いますが、何とぞご協力お願いいたします。時間につきましては、各学級担任より7月2日(水)に案内を出しますので、ご確認下さい。



着替えを準備してください

暑い日にはどうしても肌着も汗だくになります。普段は着替えなしでも良いのですが、体育などで汗をたくさんかく日は、汗びっしょりの肌着を再び着るのがイヤで、着ないままいる場合もありますので、そんな日は肌着の替えを持たせてください。おねがいします。

(裏面は「防災学習」の特集です)



総合的な学習の時間

BOSAI

＊「BOSAI(防災)」という言葉は、今や世界の防災活動のキーワードになっています

2025
JUNE
6

ねらい

防災学習を通して、安全な生活を実現するために必要な知識・技能や、状況に応じて適切に意思決定し、行動していく力を身につけます。関係機関と協力して地域の安全意識の向上を図ろうとする態度を育みます。

01 カードゲーム「シャッフル」

“いざ”という時に役に立つ防災知識を遊びながら覚えます。

02 避難所運営ゲーム (HUG)

かほく市の社会福祉協議会、防災士とともに、高松中学校が避難所となった場合を想定し、その運営方法を疑似体験することで、運営上の課題について探究的に学習します。また、状況に応じて自分の取るべき行動を判断し、行動する力を身につけます。



ACTIVITY 1 カードゲーム「シャッフル」

カードゲーム「シャッフル」は、楽しみながら防災知識を深め、実際の災害時に備える能力を養うことを目的としています。

①防災知識の定着（知識の視覚化と理解）

カードに描かれたイラストや情報は、災害時にとるべき行動や備えについての知識がしっかりと定着します。

②チームワークの強化（協力プレイを通じたコミュニケーション）

参加者が協力してゲームを進めることで、チームワークやコミュニケーション能力が自然と養われ、災害時における集団行動の重要性を学ぶことができます。

③現実的なシミュレーション（災害シナリオの体験）

実際の災害時に冷静に対処するための思考力や判断力が鍛えられます。

④防災意識の向上

（日常生活への応用）

日頃からの備えや注意が、災害時における被害を最小限に抑える鍵となります。



ACTIVITY 2 避難所運営ゲーム (HUG)

大地震が発生した後に開設される「避難所」の様子をゲームを通して体験し、『避難所とはこういったところか』を実感します。

避難所には、さまざまな事情を抱えた避難者が集まってきます。高齢者、乳幼児、妊婦、障がい者、外国人、など様々な方がいます。「HUG」では、避難所のどこにどのように入ってもらうかを考えます。避難者それぞれが抱える事情を考慮しながら、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

☆避難所運営のポイントはお次のとおりです。

- ・避難してきた方々の案内
- ・炊き出し場などの必要なスペースの確保
- ・お年寄りや妊婦さん
体の具合が悪い人など災害時
要配慮者への対応
- ・いろいろな出来事への対応



NOTICE1 みんなの感想

- 今日は、防災カードゲームをやってガスのことや水のろ過のしかたがあまり分かっていなかったのでもっと知れたので良かったです。けれど、まだいざというときにできることを半分以上も頭に入られていないのももっと勉強しようと思いました。これを、家族に伝えてより災害のときにより助けられるようにしたいと思います。
- やっぱり応急処置の仕方を覚えないと重症になるかもしれないし、最悪の場合手遅れで死んでしまうかもしれないからしっかりと覚えたほうがいいと思いました。自分が一番覚えたほうがいいと思ったのは、怪我の応急処置です。なぜかという先生も言っていた通りバイキンが入って病原菌が体の中に入ったりして体調が悪くなったり病気にかかったりするからです。これからはいざというときにいろいろな防災の知識を学んだり、他の人達に防災の知識を教えたいです。



NOTICE2 みんなの感想

- 避難所や仮設トイレなどの配置が難しかったです。中には妊婦さんや怪我をしている人、動物を連れてくる人もいたし、総理大臣やテレビ局なども来て難しかったけどおもしろかったです。目が見えない人、お年寄りなどみんなて配置を考えながらすることができました。どんどん人が来て追いつかなかったの、実際にしている人は、とても大変なんだと分かりました。
- しっかり一人ひとりの特徴に合わせて「どこがいいか、周りの人はどんな人がいいか」など考えて、設置することができた。自分ひとりでするのではなくちゃんとグループで相談し合って決めることができたから良かった。もし避難所に行くことになったら手伝えることをしたい。

